鉄鋼×建設サプライチェーン

デジタル化の現在地

㊦「ミルシート電子化」

「川上・川中・川下」つなぐ情報基盤構築へ

ペーパーレスで業務効率化

鉄鋼メーカーが発行するミルシートは一次商社や鋼材の加工業者、需要家へとサプライチェーンを横断し受け渡され、使用する鋼材の品質の確かさを証明する。

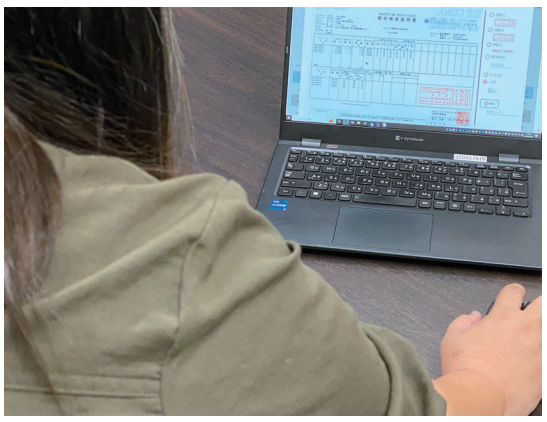
工程を経るほど、1枚のミルシートは複数の物件に関わるようになる。やり取りや管理は伝統的に紙ベース。OCRでPDFファイル化するといった個社での部分的な電子化は図られてきたものの、サプライチェーン全体でのデジタル化はなかなか進まなかった。

一つのプラットフォームを共有することで、アナログが混在してきた川上、川中、川下をデジタルで一気通貫し効率化できないか―。それを初めて実現するのが、三菱商事マテリアルソリューショングループ産業素材DX部からリリースされた「Mill―BOX（ミルボックス）」だ。

ミルシートは鉄鋼メーカーによって電子開示していない場合もあるのが現状。ミルボックスを活用することで、鉄鋼メーカー自身もメタデータを使いミルシートの電子化に対応できる。

電炉大手の中部鋼鈑は昨年10月からミルボックスの運用を開始した。これまで多くの時間と人員を割いていたミルシートの仕分け、発送業務が大幅に効率化。ペーパーレス化にも寄与し取引先から「使いやすい」と好評を得ている。ミルシート業務の省人化により、同じく10月からサービスを始めた自社の納期管理業務を一元管理するデリバリーサポートセンター（DSC）の全国展開に人員を充てることができた。

その後、中部鋼鈑を皮切りに電炉メーカーでのミルボックス採用は9社へと拡大。川上でのデジタル化が着実に進む結果となった。



三菱商事マテリアルソリューショングループがリリースしたミルボックスでは押印も電子上で行える

そのミルボックスが誕生するきっかけの一つとなった川中の鉄鋼流通が、エムエム建材販売の関東支店関東鉄鋼センター（群馬県邑楽郡）だ。

で協力し、その先駆的な経験がモデルケースとなって他の支店にも展開された。昨年10月にはエムエム建材販売の全社でミルボックスの導入が完了している。

「紙のミルシートへの押印はシャチハタのように簡単にはいかない。徐々にインクのしみこみが悪くなり、上下逆に押してしまったら一からやり直し。ミルボックスではウェブ上で登録印を簡単に押せる」。関東支店でミルシート業務を担当する見目秀子氏はこう使用感を話す。

外出時でも顧客から求められれば、帰社後に出荷票から検索しミルシートを刷り出し押印、発送する必要があったがインターネット環境さえあれば出先でも確認や発行が可能となる。ミルシートのみでなく押印含め電子化しているのは現場でのヒアリングを重ね開発されたミルボックスならではの機能だ。

デジタル化の効果を如実に物語るのは紙の使用量。小松弘知・関東鉄鋼センター長によると、以前の月間5千枚から今では半分以下に減ったという。ミルボックスでは物件名や製鋼番号などで顧客が検索し、必要な時に時間帯を問わずミルシートへアクセスできる。小松センター長は「お客さまからはデータベースとしても便利だと好評を頂いている」と話し、見目氏も「月末に多かった問い合わせが飛躍的に減った」と変化を実感する。

建材のサプライチェーンで最もエンドユーザーに近い住宅メーカー・ゼネコンでもミルシート電子化には大きな期待が寄せられている。ミルボックス採用を決めたハウスメーカー最大手、大和ハウス工業は住宅系と一般建築系で合わせて年間30万トンの鋼材を使用。扱うミルシートは年5万5千枚、ここに割かれる時間は5100時間に上る。

購買部門の森亮一郎次長は「ミルシートのシステム化は長年の夢だった」と話す。

森氏は資材調達を30年担当してきた大ベテラン。この間、ミルシートの管理や保管は「全く変わっていない。必要な業務だが、労力がかかり過ぎている」と問題意識を抱いてきた。

新しいソリューションには常にアンテナを張ってきたが「あともう一歩と感じていた」中で登場したのがミルボックス。「開発の経緯や思想がしっかりし、三菱商事だけに鉄鋼ビジネスも理解していた。かゆい所に手が届いている」のが導入の決め手となった。

ミルボックスはまず住宅系から導入していく計画で、第一弾として今秋に栃木二宮工場（栃木県真岡市）で活用を始める。7月19日からはトライアルに入った。森氏は「鉄工所を訪ねると、どこも人手が足りず募集中。社長が土日に出てきてミルシートを管理している。苦しんでいる鉄工所のためにも成功事例として一石を投じたい」と意気込む。ミルボックス導入対応は、森氏のイニシアチブのもと同部門の青木宏文主任と森岡拓也主任が主幹を務め、来年度からは一般建築系の工場にも導入を広げる予定だ。

労働人口が減る中、多様な働き方を可能とし業務そのものを社会全体で効率化していく施策は欠かせない。ミルボックスはその萌芽となれるか、真価が問われることになる。

ミルボックス
ミルシートからのサイトはこちら